

薬 剤 部

部長：祝部 輝彦

医薬品の供給停止や出荷制限が慢性化となり、安定供給が困難なため他剤あるいは他メーカー品に変更した採用医薬品も複数あり、治療の継続に苦労する1年であった。ここ数年続いているこの状況は、改善の兆しが無い。

I 人事

7月に1名の採用があったものの、欠員の完全補充ができないまま、薬剤師15名・事務員1名の体制で業務にあたった。

II 業務実績

1. 病棟関連業務

病棟薬剤業務実施加算は継続し算定することができた。薬剤管理指導料や退院時薬剤情報管理指導料の算定件数は前年度に比べ増加している。

2. ジェネリック医薬品の使用促進

ジェネリック医薬品の使用割合は継続して90%以上を維持しており、後発医薬品使用体制加算1が算定できている。

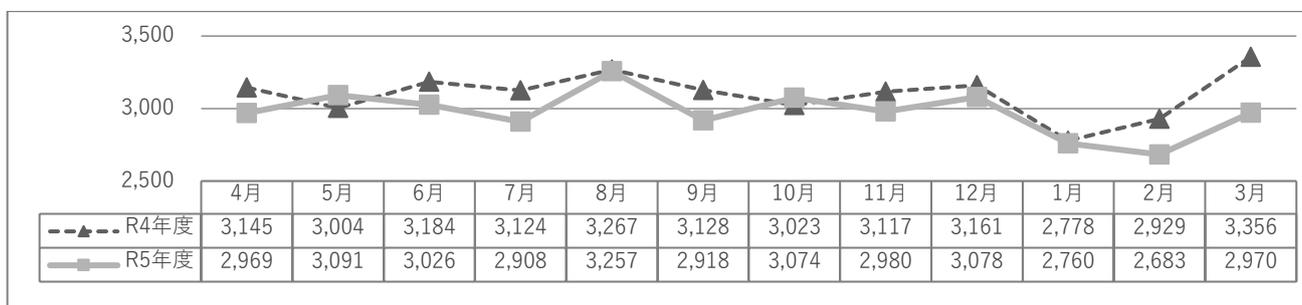


図1 外来院外処方箋枚数の推移

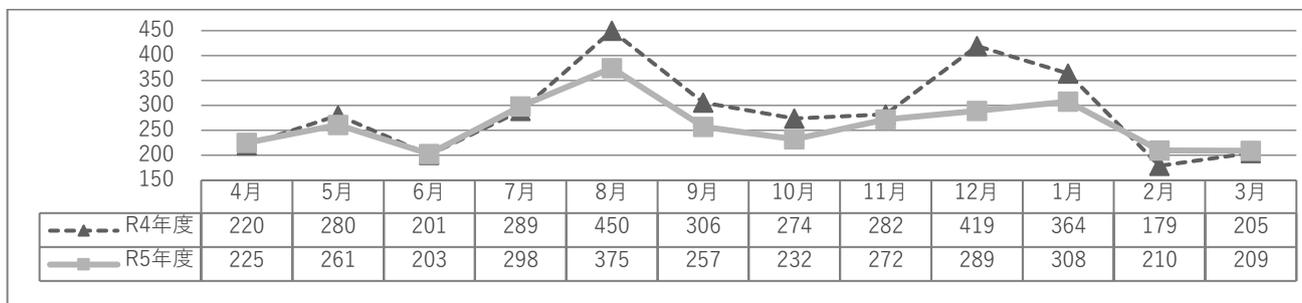


図2 外来院内処方箋枚数の推移

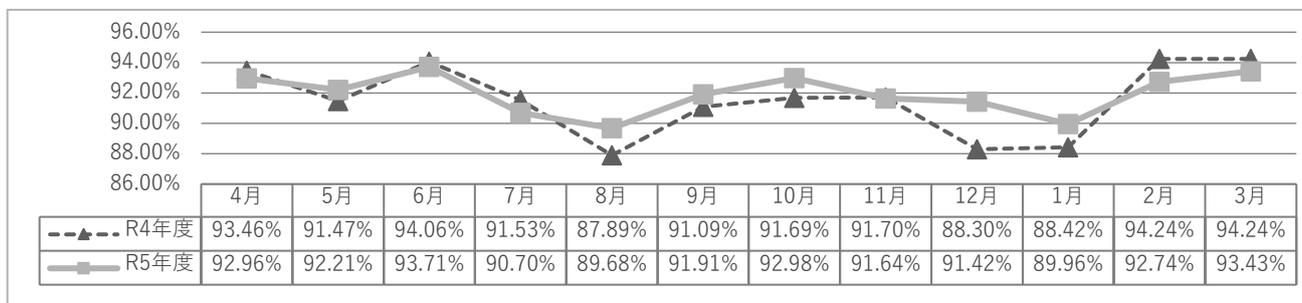


図3 院外処方箋発行率の推移

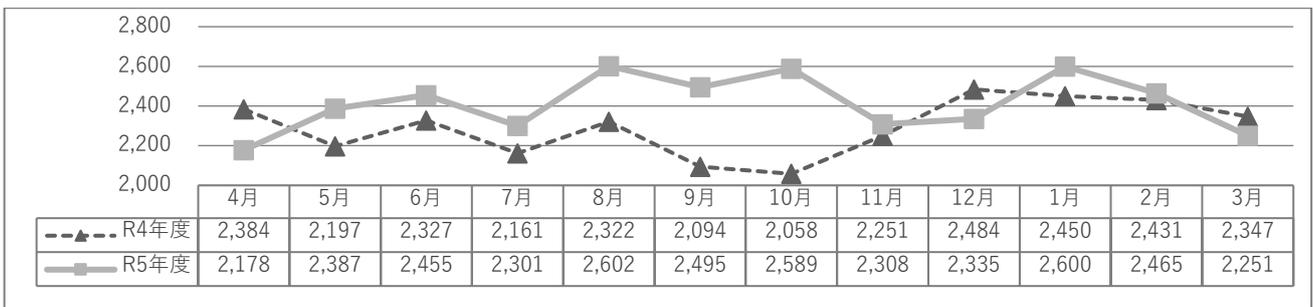


図4 入院処方箋枚数の推移

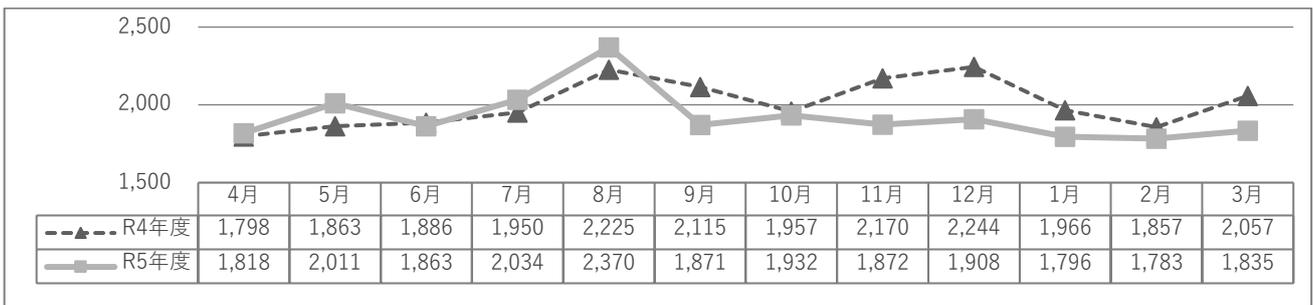


図5 外来注射箋枚数の推移

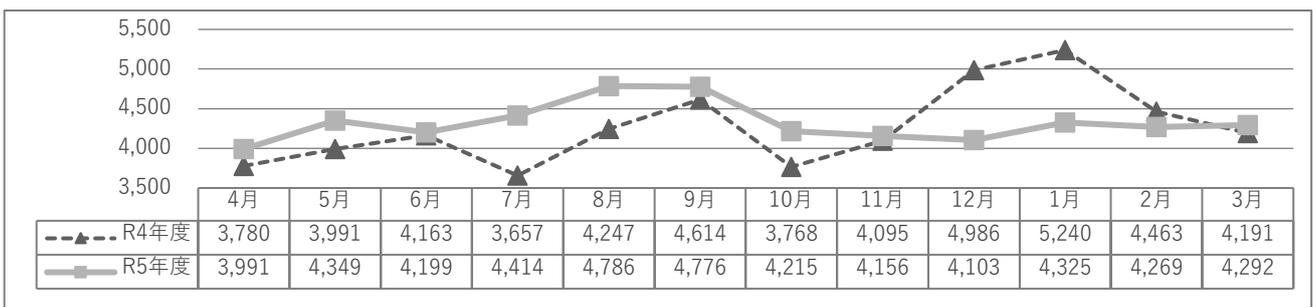


図6 入院注射箋枚数の推移

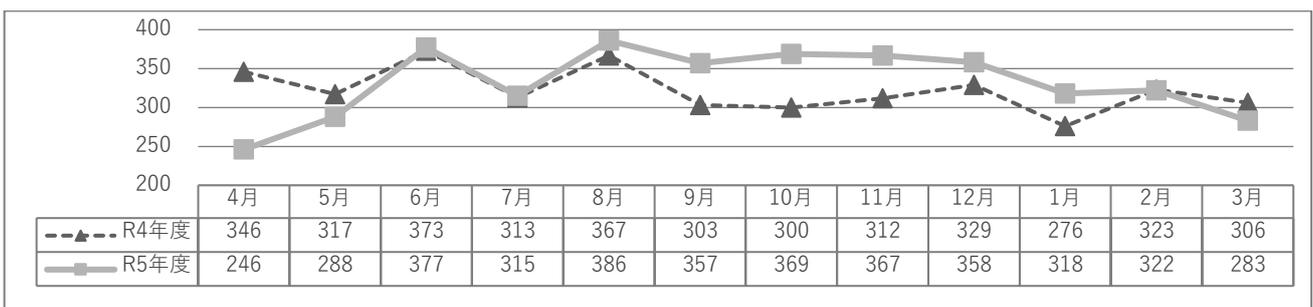


図7 薬剤管理指導料算定件数の推移

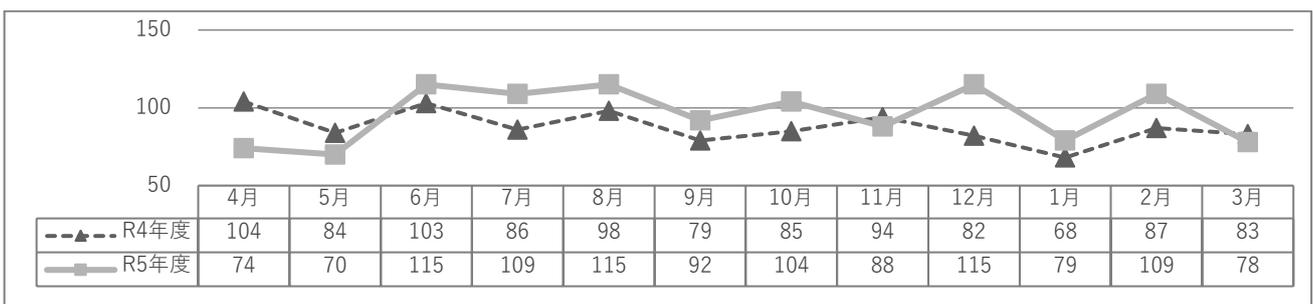


図8 退院時薬剤情報管理指導料算定件数の推移

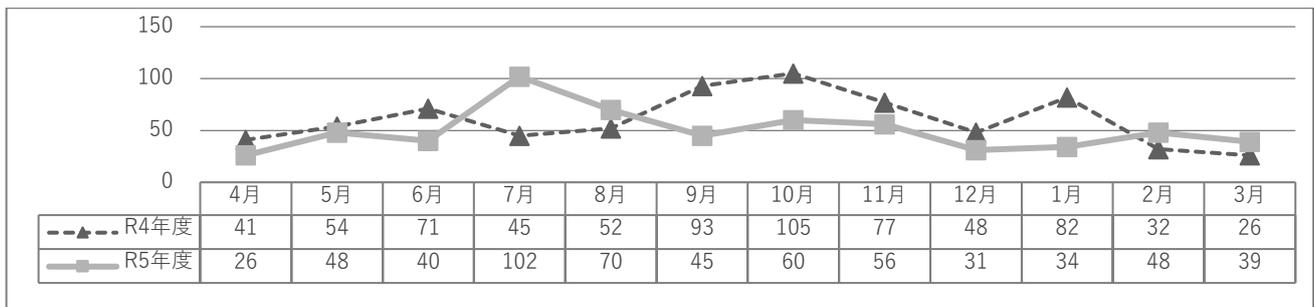


図9 無菌製剤処理料2算定件数の推移 (TPN調製)

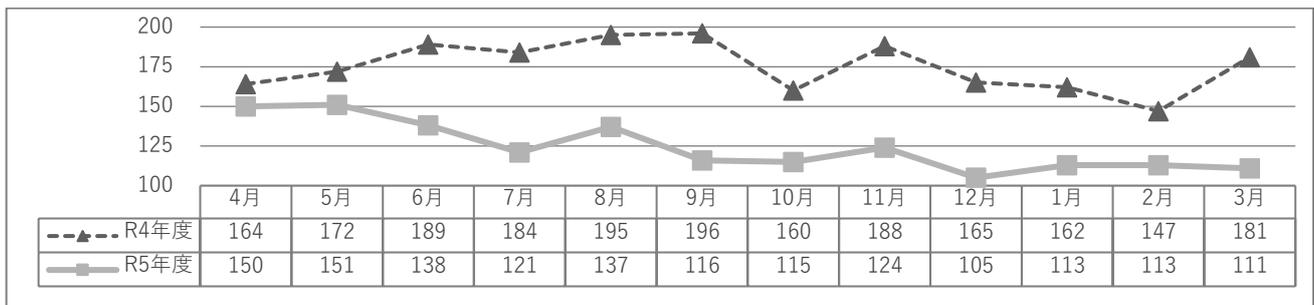


図10 無菌製剤処理料1算定件数の推移 (外来抗がん剤調製)

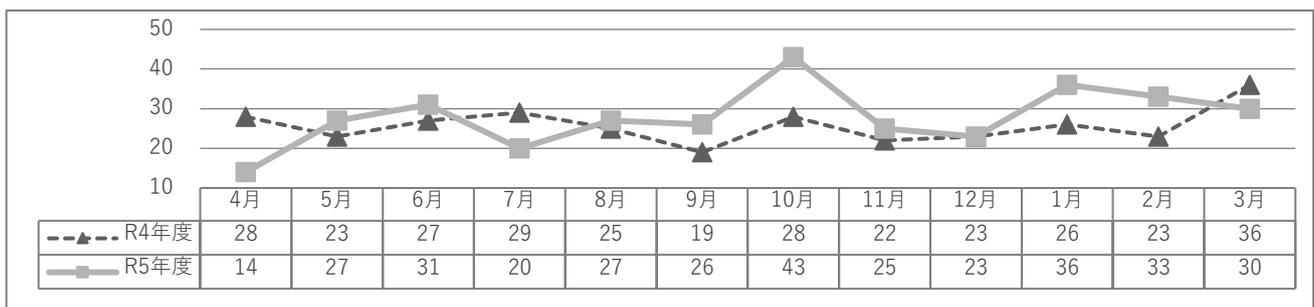


図11 無菌製剤処理料1算定件数の推移 (入院抗がん剤調製)

中 央 検 査 部

副技師長：小林 香織

I 人事

令和5年度は、前年と同じく正職員15名、会計年度任用職員の臨床検査技師3名の合計18名でした。事務員1名が9月末に退職し、新たな事務員を11月に採用しました。

II 装置導入等

- ・スパイロメータ（スパイロシフトSP-370COPD）
- ・純水装置（ピュアライトPRA）
- ・局所排気装置（ヒストテックエアプロ）

III 業務実績

2023年6月に、臨床化学、免疫血清、微生物、血液、細胞、一般、生理、輸血、病理、遺伝子の10部門すべての部門において、日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理で所定の基準成績を維持し、日々の内部精度管理、是正改善状況をはじめ、職員の教育・充足についても審査を合格し、品質保証施設認証制度の基準を満たしている品質保証施設に認証されました。

2023年6月、臨床検査適正化対策委員会で協議の上、検体検査パニック値を見直し、パニック値の報告体制を変更しました。夜間休日のパニック値報告について、依頼医へどうしても連絡がつかない場合は中央検査部より日当直医師へ連絡する体制とし、速やかに対応できる医師へ報告することにしました。

2024年1月、髄膜炎・脳炎起因微生物の網羅的遺伝子検査を24時間体制で院内導入しました。髄膜炎の原因のウイルス、真菌、細菌14種類を約1時間半で高感度に検出できるため、治療開始までに検査結果が判明し、早期に確定治療を開始できるようになりました。

IV 学術業績

<院外発表>

「当院のパニック値報告体制の構築について」

村上裕絵、田中美穂、柿ヶ原大貴、小林香織、谷口英明

第49回鳥取県医学検査学会（2023.10.1）

「髄膜浸潤を来した急性リンパ性白血病の1例」

田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶、小林計太

第37回鳥取県臨床細胞学会学術集会（2023.12.23）

<院外講師>

「細胞診精度管理 県内施設の現状報告」

佐々木 伽耶

鳥臨技第2回病理細胞部門研修会（2023.8.19）

「当院の術中モニタリングについて」

中原 美穂

鳥臨技第2回臨床生理部門研修会（2023.12.17）

「当院の輸血業務の現状と課題」

村上 裕絵

令和5年度鳥取県合同輸血療法委員会主催研修会（2023.7.15）

<院内講師>

「採血管について」

森 一葉

モーニングレクチャー（2023.10.19）

V 認定有資格者

令和5年度は7月に徳安友季技師が緊急検査士を取得、10月に今嶋紗也技師が二級臨床検査士（微生物）を取得、12月に谷本真梨子技師が国際細胞検査士を取得、3月に西川裕子技師が心不全療養指導士を取得、村上裕絵技師が鳥取県糖尿病療養指導士を取得しました。田中美穂技師が3月に化学物質管理者講習および保護具着用管理責任者教育を修了しました。

中央検査部臨床検査技師の取得資格は以下のとおりである。

- ・細胞検査士（日本）／4名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶
- ・細胞検査士（国際）／3名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子
- ・認定臨床微生物検査技師／1名／小林香織
- ・感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）／1名／小林香織
- ・超音波検査士（消化器）／5名／村上裕絵、加藤富子、西川裕子、後藤陽子、小林香織
- ・超音波検査士（循環器）／1名／西川裕子
- ・超音波検査士（体表臓器）／4名／加藤富子、村上裕絵、後藤陽子、西川裕子
- ・超音波検査士（健診）／3名／小林きよこ、小林香織、西川裕子

- ・二級臨床検査士（病理）／3名／小林きよこ、田中美穂、谷本真梨子
- ・二級臨床検査士（微生物）／1名／今嶋紗也
- ・緊急臨床検査士／3名／柿ヶ原大貴、森一葉、徳安友季
- ・認定病理検査技師／1名／小林きよこ
- ・JHRS認定心電図専門士／1名／垣内真未
- ・乳がん検診超音波検査実施技師／1名／加藤富子
- ・心不全療養指導士／1名／西川裕子
- ・鳥取県糖尿病療養指導士／2名／柿ヶ原大貴、村上裕絵
- ・有機溶剤作業主任者／4名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶
- ・特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者／5名／小林香織、田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、佐々木伽耶
- ・化学物質管理者講習修了／1名／田中美穂
- ・保護具着用管理責任者教育終了／1名／田中美穂

VI 検査件数

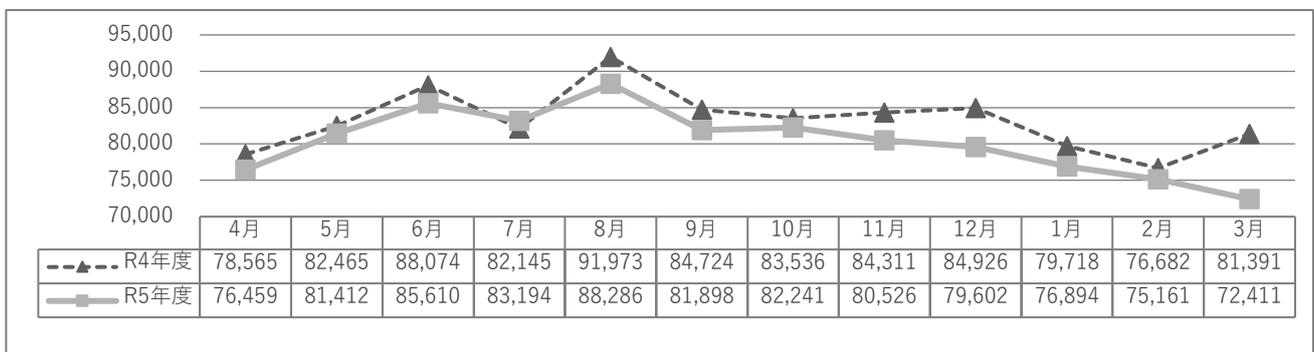


図1 検体検査 検査件数

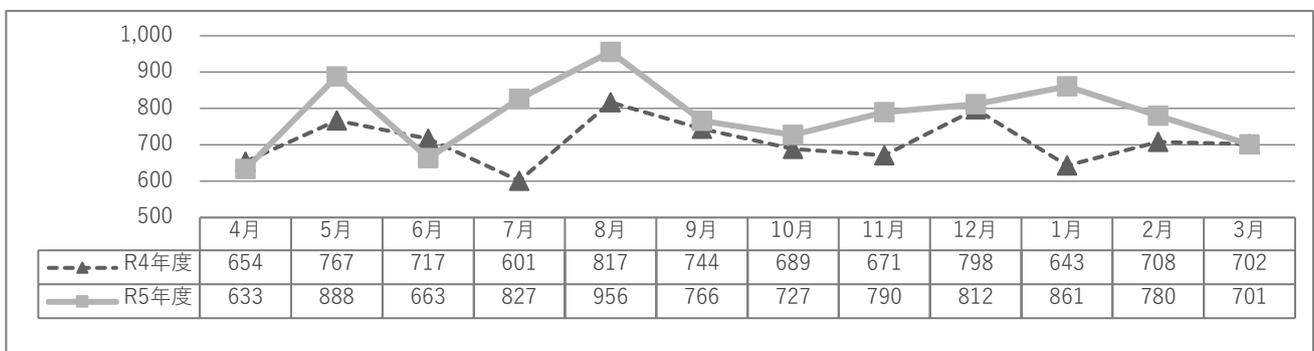


図2 細菌検査 検査件数

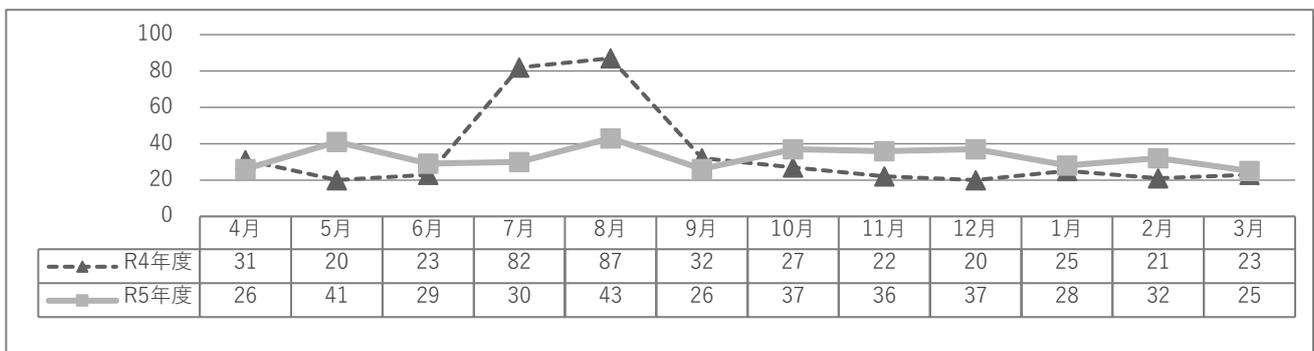


図3 遺伝子検査 検査件数

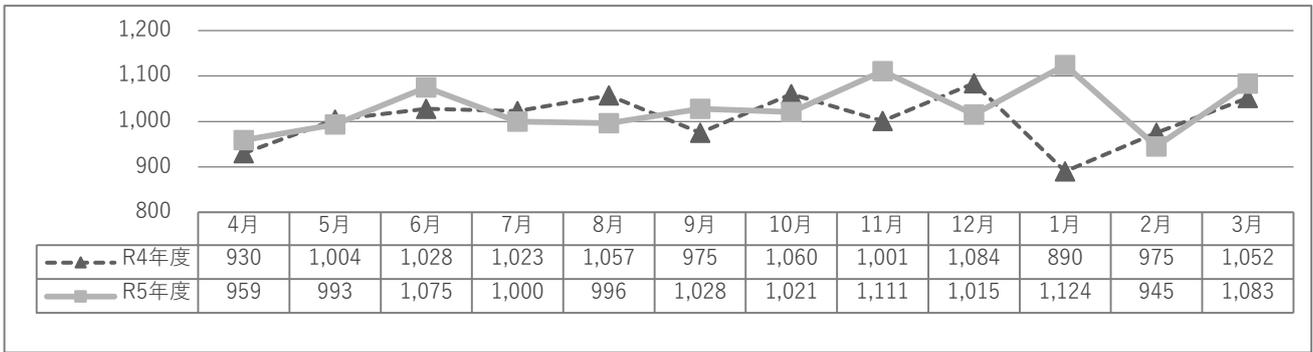


図4 生理検査 検査件数（健診除く）

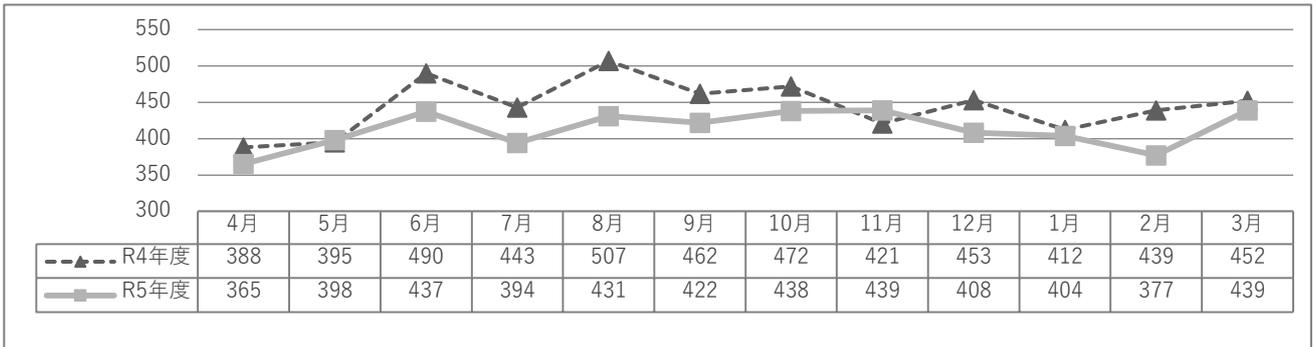


図5 病理検査 検査件数（組織・細胞診）

中央放射線部

技師長：横地 延彦

I 装置導入等

- ・X線骨密度測定装置を前年度末に導入し、運用方法を確立した。
- ・MRI装置を更新した。
- ・汎用型血管撮影装置を運用停止し代替え検査の運用を検討した。
- ・MRI更新に伴いMRI用の直腸解析が出来るようになったため、3D作成装置をバージョンアップした。
- ・RALSの線源減衰に伴い線源を廃棄した。管理区域の変更は来年度外部照射装置廃棄時に一緒に行う。

II 検査・治療関連

- ・X線骨密度測定装置が設置され運用方法決定した。
- ・MRI装置更新に伴い検査内容の見直しを行った。

III 検査件数

検査件数は前年度とほぼ同じであった。(検査件数を下記に記す)

今後も検査手順の見直し装置の更新等で待ち時間の短縮を図って行きたい。

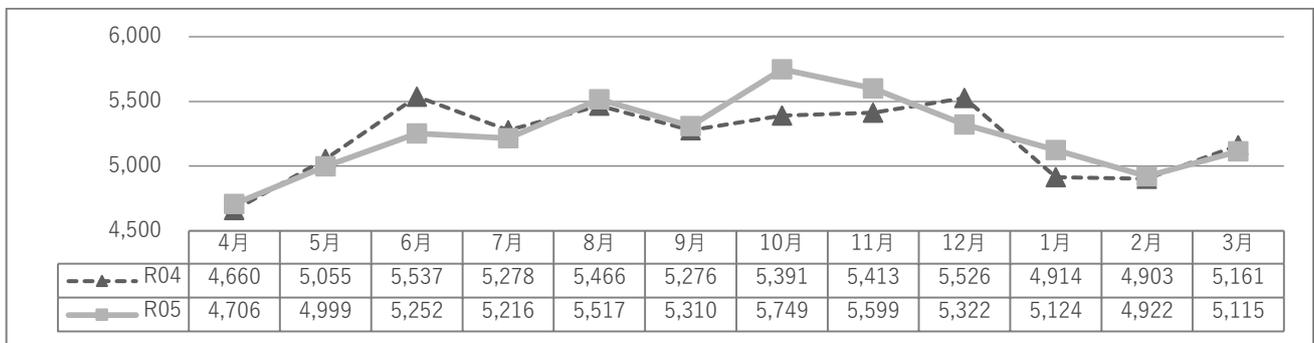


図1 総合計

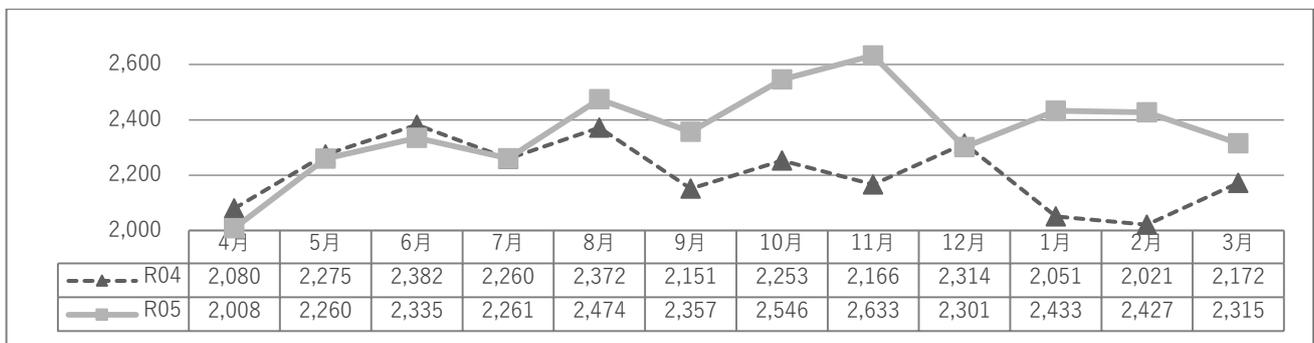


図2 一般撮影

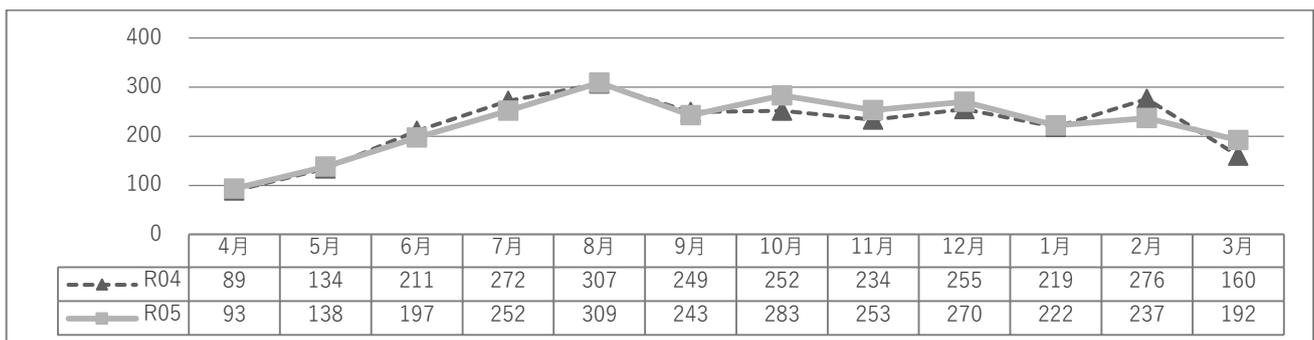


図3 乳房撮影

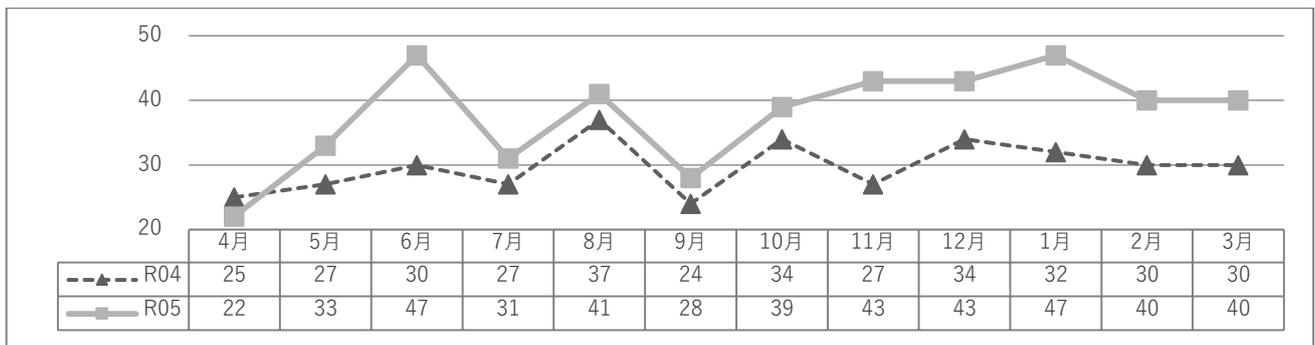


図4 歯科撮影

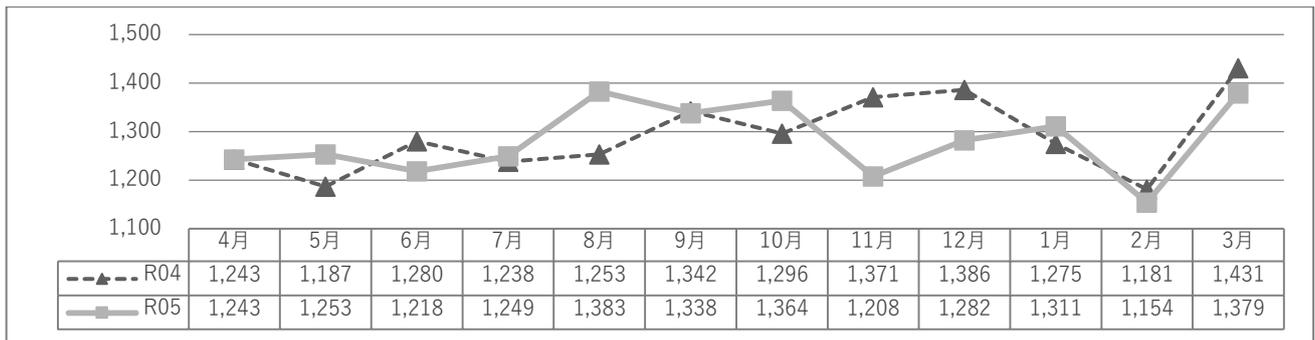


図5 CT検査

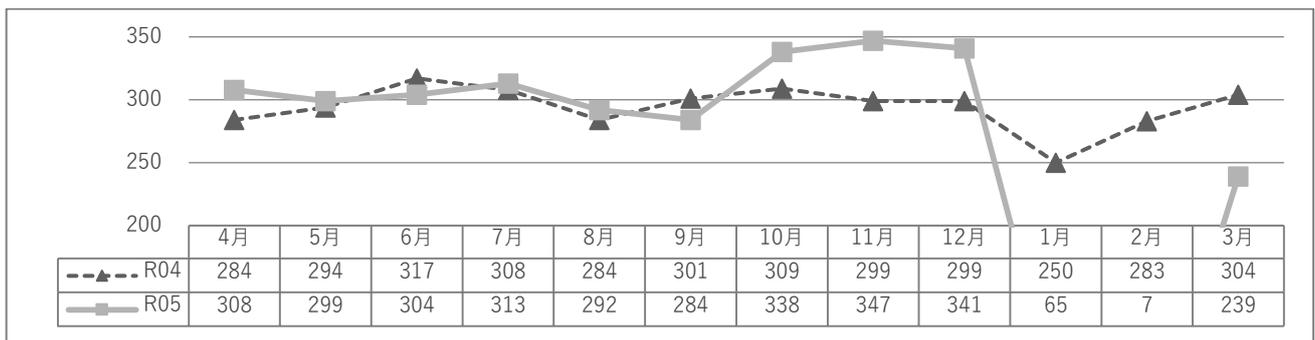


図6 MRI検査

※令和6年1～3月はMRI更新工事のため件数減少

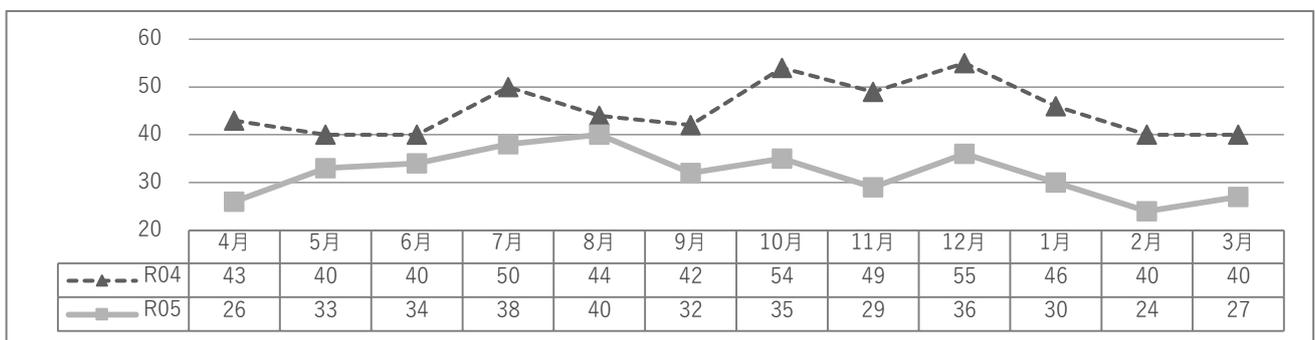


図7 PET/CT

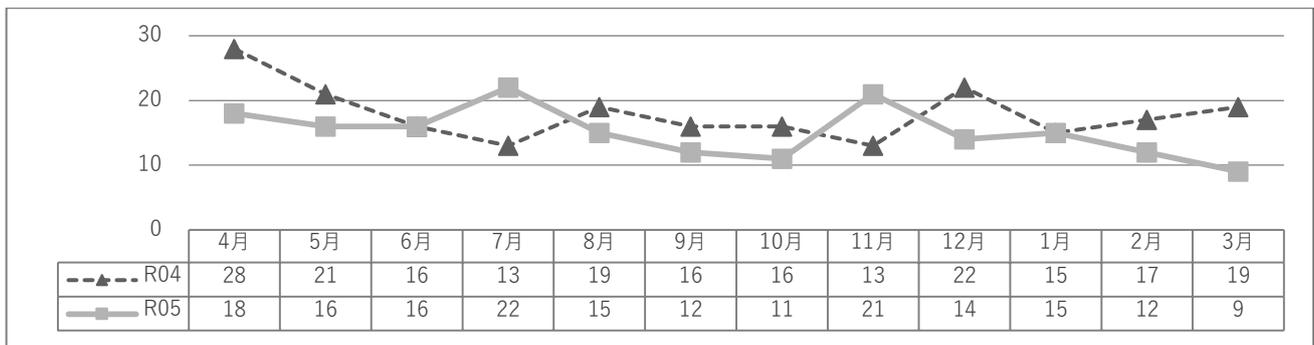


図8 RI検査

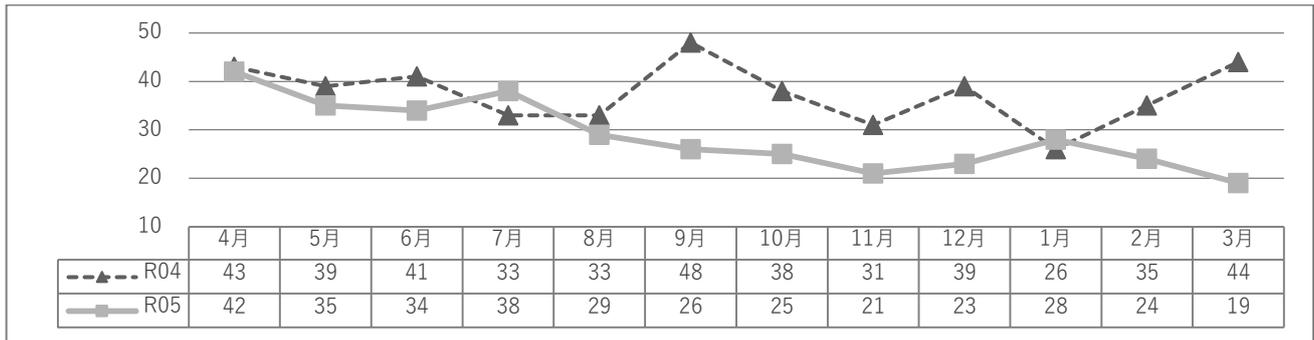


図9 血管撮影

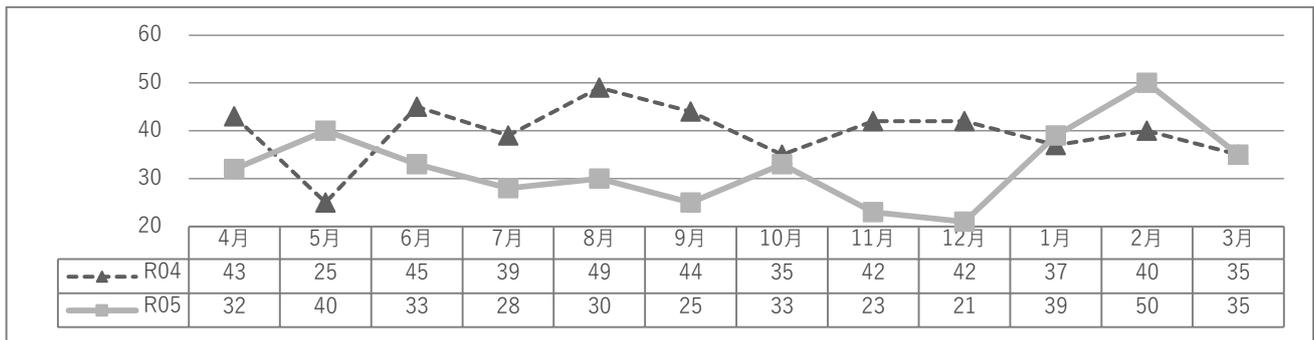


図10 造影透視（胃透視除く）

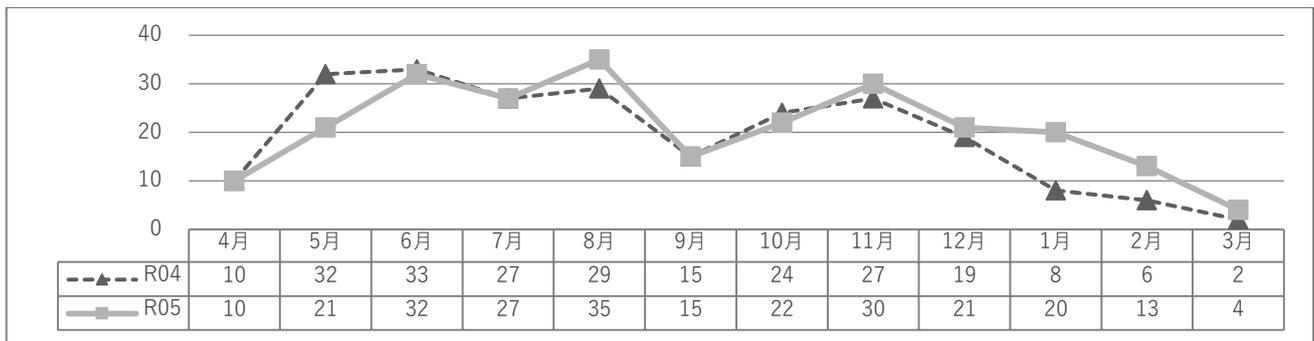


図11 胃透視検査

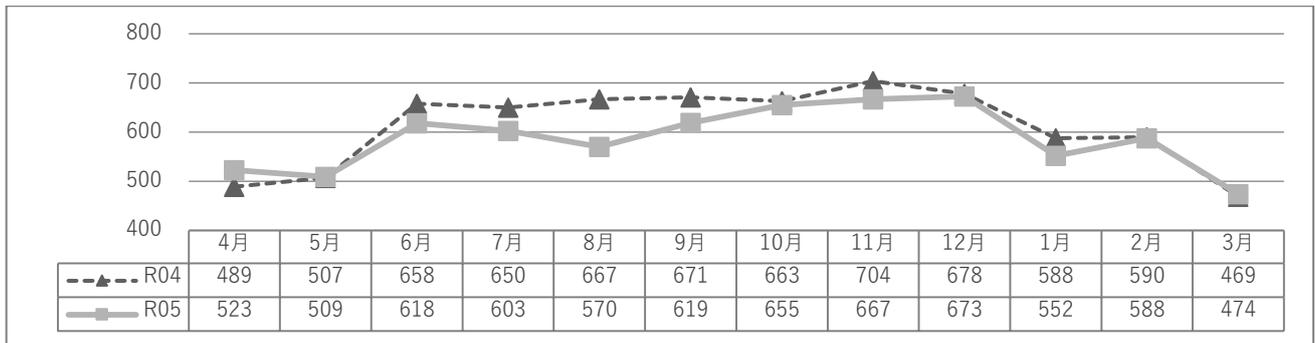


図12 内視鏡（内視鏡室+透視室）

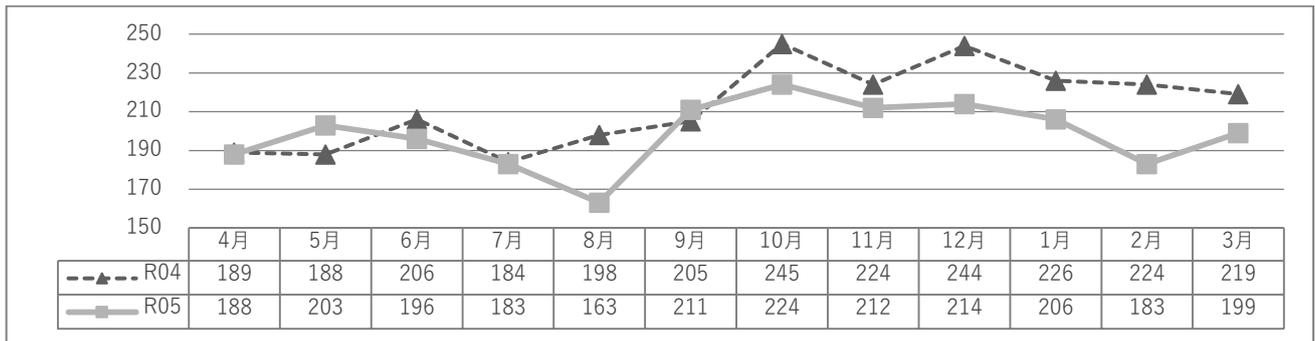


図13 画像出力（CD+フィルム）

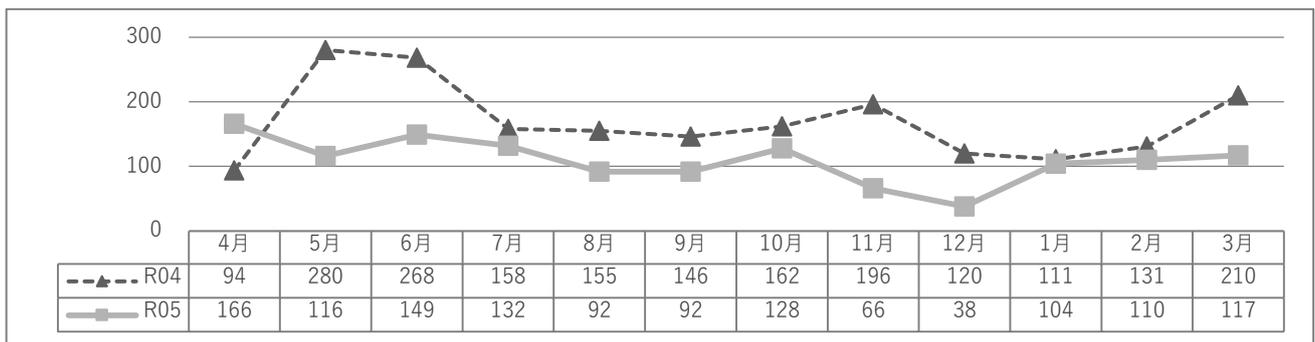


図14 放射線治療（計画含む）

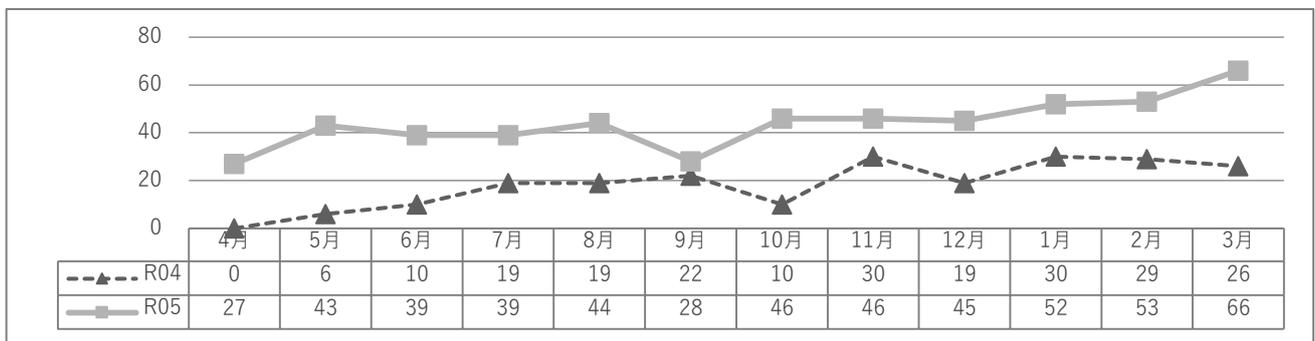


図15 骨塩定量

リハビリテーション部

技師長：國田 明子

I 人事

令和5年度の療法士数は、理学療法士10名（うち1名は、地域包括ケア病棟専従療法士）、作業療法士5名、言語聴覚士5名と前年度同様でしたが、言語聴覚士2名が年度末で退職となりました。

II 業務実績

1. 診療実績

令和5年度の理学療法・作業療法・言語聴覚療法各部門の実績は図1～3のとおりです。理学療法部門では年度を通じて運動器リハビリテーションが最も多く、作業療法部門では運動器リハビリテーションが多い月と廃用症候群リハビリテーションが多い月がありましたが、合計件数では運動器リハビリテーションが最も多くなり、言語聴覚療法部門では廃用症候群リハビリテーションが多い月がほとんどでした。また、リハビリテーション部全体の診療件数は令和4年度を上回る月がほとんどとなり（図4）、前年度比11%のアップとなりました。

2. 実習生受入

新型コロナウイルス感染症に関連した院内の規定に従って実習生を受け入れ、今年度は感染拡大状況による受け入れ中止となることはなく対応できました。部門別の受け入れ状況は以下のとおりです。

〔理学療法部門〕

- ・令和5年6月19日～8月10日
YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 1名
- ・令和5年7月10日～9月1日
鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名
- ・令和6年2月26日～3月8日
YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 1名

〔作業療法部門〕

- ・令和5年1月15日～2月23日
鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名
- ・令和5年2月26日～3月8日
YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 1名

3. 講義・依頼事業

新型コロナウイルス感染症の影響の余波により、昨年度と同様、講義・依頼事業の件数は例年に比べ減少しました。

<院外>

- ・鳥取看護高等専修学校 講義
治療法概説「リハビリテーション」
令和6年1月17日 講師・阿合佑平（理学療法士）
令和6年1月24日 講師・下村教光（理学療法士）
令和6年1月31日 講師・山田莉穂（理学療法士）
令和6年2月7日 講師・杉原絵理（作業療法士）
令和6年2月14日 講師・森岡早貴（言語聴覚士）
- ・社会福祉法人あすなろ会 摂食嚥下研修会
「嚥下評価について」
令和5年8月28日 講師・藤原美幸（言語聴覚士）

<院内>

- ・モーニングレクチャー
「歩行自立度について」
令和5年7月14日 講師・大河原隆二（理学療法士）
- ・労働安全衛生委員会 エイジフレンドリー研修会
「あなたの腰は大丈夫？～腰痛予防対策しっかり学んで正しく実践」
令和5年10月5日 講師・中田 恵（理学療法士）、
阿合春菜（理学療法士）

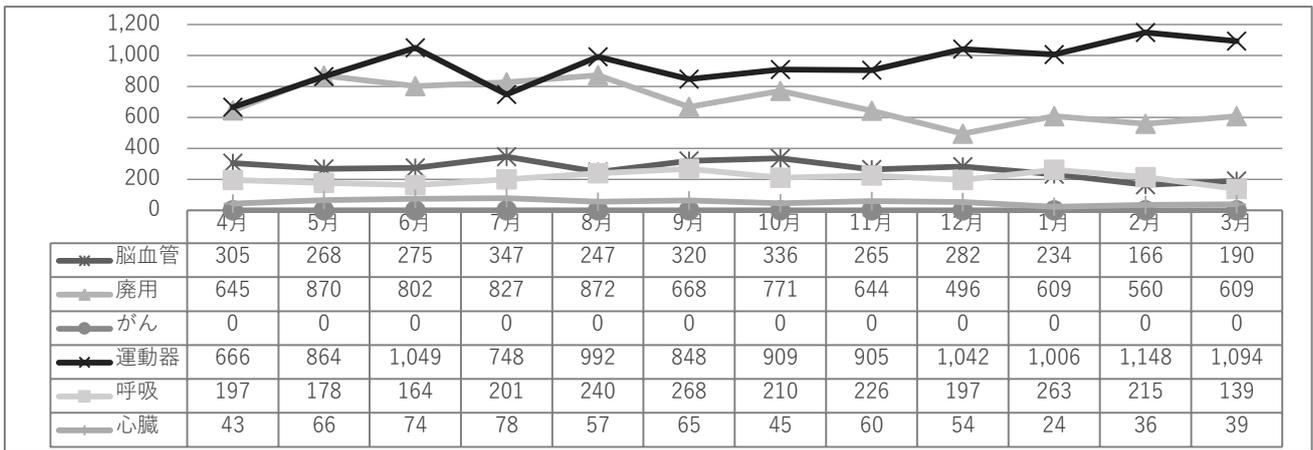


図1 理学療法件数

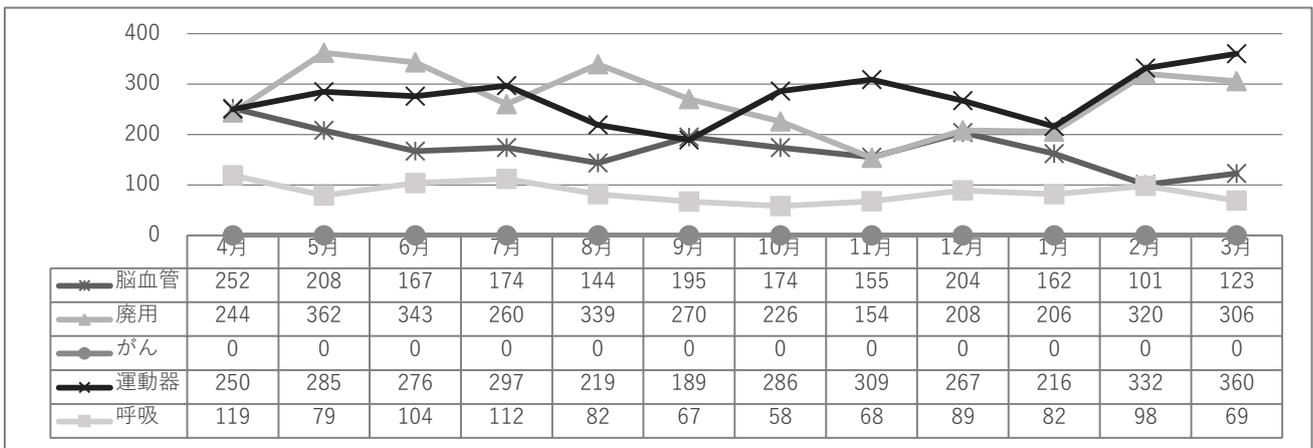


図2 作業療法件数

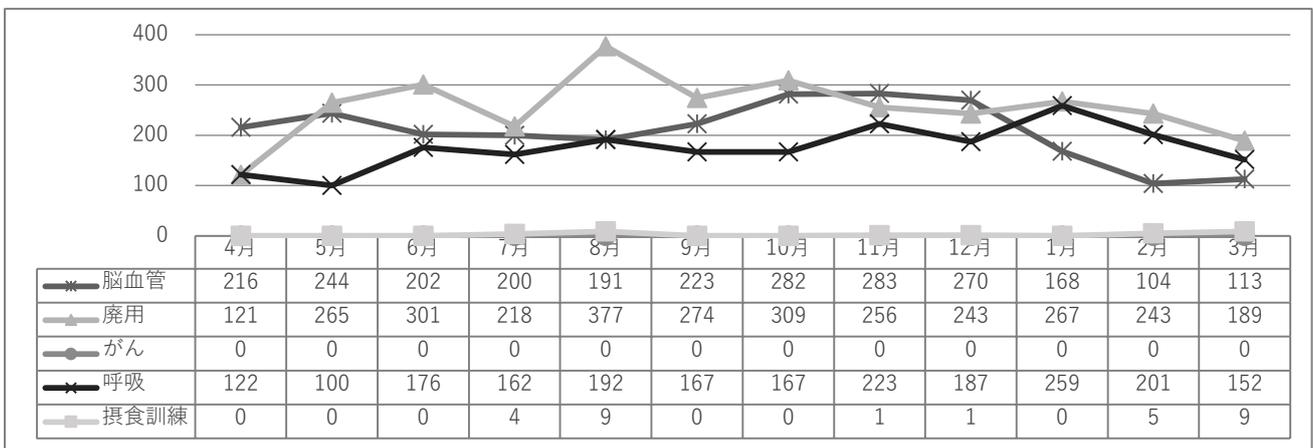


図3 言語聴覚療法件数

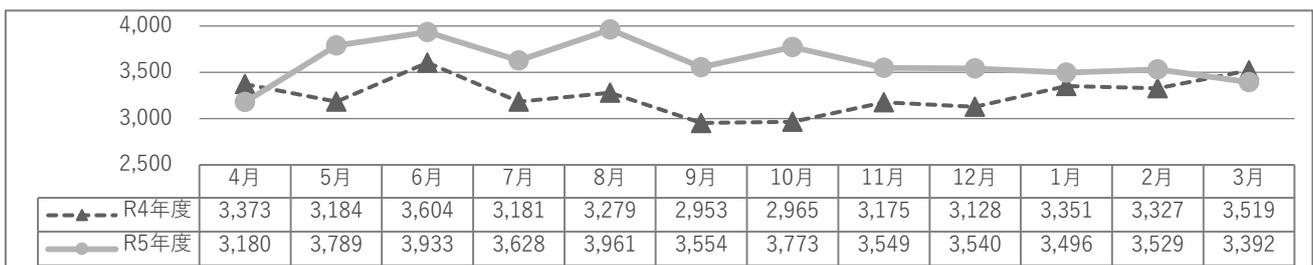


図4 リハビリテーション部 (PT・OT・ST合計) 診療件数

臨床工学部

技師長：藤原 弘昌

令和5年度も8名体制にて業務にあたった。臨床業務では、外科領域における手術支援ロボットの運用開始及び整形外科領域におけるナビゲーションシステムの使用術式拡大へ対応した。また、医療機器管理業務に関してはRFIDタグを用いた医療機器中央管理システムを開発、新システムへの更新により医療機器管理体制の強化を図った。

I 新たな取り組み

1) 外科領域の手術支援ロボットへの対応

外科領域における手術支援ロボットの導入にあたり、運用方法に関する検討や事前シミュレーションを重ね、令和6年3月に初症例を行った。手術支援ロボットに関する具体的な担業務としては、使用前点検、術前準備、手術開始時のセットアップや術中トラブル対応を行った。

2) 骨盤骨折観血的手術のナビゲーションシステムへの対応

整形外科からの依頼を受けて、脊椎手術や脳血管・腫瘍手術に加え、新たに骨盤骨折観血的手術におけるナビゲーションシステムを用いた手術支援業務を開始した。

3) 医療機器中央管理システムの更新

従来の医療機器中央管理システムからRFIDを活用した新システムへの更新作業を行い、中央管理機器の貸出返却管理や点検記録管理等の運用を開始した。

4) 生体情報モニタアラーム運用の変更

セントラルモニタのアラーム初期設定の最適化をするために、設定変更に関する試験運用を実施し、医療安全対策委員会の承認を得て本格運用を開始した。

II その他

1) 実習生受け入れ

出雲医療看護専門学校 臨床工学科 計2名

2) 学会発表

第33回日本臨床工学会

2023/7/21～23 広島国際会議場、JMSアステールプラザ

- 「磁場式ナビゲーションシステムの磁場センサーと磁場発生装置の設置距離と金属干渉の関

連性についての検証」

鳥取市立病院 臨床工学部 岡崎 義

- 「当院におけるタスク・シフト／シェア推進（手術室業務拡大）への取り組み」

鳥取市立病院 臨床工学部 山田 康太

- 「当院における生体情報モニタのアラーム低減に向けた取り組み」

鳥取市立病院 臨床工学部 橋本 遼平

第13回中四国臨床工学会

2023/10/28～29 米子コンベンションセンター BiG SHiP

- 「磁場式ナビゲーションシステムにおける磁場領域内の金属類の干渉による表示誤差についての検証」

鳥取市立病院 臨床工学部 岡崎 義

- 「内視鏡洗浄におけるリユーザブルデバイスの洗浄性能の検討」

鳥取市立病院 臨床工学部 北尾 翔

- 「当院におけるスコープオペレーター業務への取り組み」

鳥取市立病院 臨床工学部 玉川 沙耶

- 「ロボット支援下手術における清潔補助業務への介入」

鳥取市立病院 臨床工学部 山田 康太

- 「生体情報モニタラウンドによるアラーム低減に向けた取り組み」

鳥取市立病院 臨床工学部 橋本 遼平

3) 資格取得

玉川 沙耶：日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡技師

III 業務実績

令和5年度、従事した臨床業務および医療機器安全管理業務の実績は以下のとおり。

表1 従事した主な臨床業務の実績

内容	件数	備考
血液透析療法 (HD)	103	
腹水再静注療法 (CART)	6	
持続血液ろ過透析 (CHDF)	3	
血液浄化療法 (アフエレス)	3	GCAP : 3件
ペースメーカー植込み手術関連業務	6	
ペースメーカー関連業務	123	外来チェック : 79件
ラジオ波焼灼術 (RFA)	4	
血管撮影室関連業務 (循環器内科)	121	PCI : 32件、EPS : 5件
血管撮影室関連業務 (放射線科/脳外科)	9	
手術室関連業務	1,715	眼科手術関連業務 : 953件 泌尿器科手術関連業務 : 67件 ナビゲーション関連業務 : 56件 カメラ保持業務 : 18件
内視鏡室関連業務	5,737	ESD : 75件、ERCP : 175件
その他	12	睡眠時無呼吸検査、患者搬送等

表2 医療機器安全管理業務の実績

内容		件数
点検修理対応		303
メーカー修理対応		58
日常点検業務	輸液ポンプ・シリンジポンプ	3,196
	生体情報モニタ等	1,403
	人工呼吸器・麻酔器	38
	血液透析関連装置	103
	深部静脈血栓予防ポンプ	185
	その他、CRP測定装置等	
定期点検業務	輸液ポンプ・シリンジポンプ	346
	特定保守対象機器 (人工呼吸器、IABP、PCPS、除細動器、 保育器、血液浄化装置等)	76
	救急室ME機器	60
	その他、AED等	44
	電波管理対象機器	97
	手術室点検業務	生体情報モニタ、麻酔器等
安全管理	医療機器研修会の開催 (28機種 ※うち新規導入4機種)	30
	医療機器安全情報等の収集 (公的機関、メーカー)	27

栄 養 管 理 部

部長：横山 康博

文責：山本 千幸

新体制1年目となった今年度も、食材高騰に悩まされた。必要な物資を厳選し下処理段階や調理法に工夫を凝らし、より「美味しい病院食づくり」に尽力した。

管理栄養士はチーム医療へ積極的に参加し専門職としての役割を担った。

年度途中には調理員1名が採用され、慢性的人員不足解消への光がさした。

I 食事提供数 (表1)

治療食割合を示す特食比率は年間平均29.5%。

II 特別メニューの提供

実施回数117回901食 (×50円=45050円) ラーメン・天ぷらそばなど一般給食では提供し難いメニューが人気。また、えびを使ったメニュー (エビフライカレーやエビチリなど) を選択される方が多いため、頻回に登場させるようにしている。

III 行事食

疾病予防啓発を兼ねた行事食に力を入れ、病棟掲

示献立や栄養ニュースを活用し行事食の周知に努めた。高血圧デー (5月)・ロコモ予防の日 (6月)・栄養の日 (8月)・骨粗鬆症デー (10月)・糖尿病週間 (11月)を実施。通常の行事食としては初の試みとして、しゃんしゃん祭りと花火大会開催に合わせ夏祭りメニュー (お好み焼き・焼きそば・ビール風ゼリー) を提供した。

IV フードロス対策

ベッドコントロール画面を利用して入退院予定を確認し、予定食数へ反映させることや、同じ食材を治療食展開させられるよう下処理や調理法の工夫に努め、食材の無駄を省くよう取り組んでいる。また、生ごみは堆肥化する業者へ協力している。

V 栄養指導件数/指導内容 (入院)

年間861件 (入院311・外来550)、加算率92.8% (図1、表2)。

継続フォローは延べ238件、うち循環器が192件でチーム活動での取り組みが件数増加へ波及している。

表1 食数集計表

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食合計	10,585	11,150	11,224	11,343	12,370	12,429	11,764	11,338	12,239	12,645	12,492	10,962	140,541
特別食合計	4,624	5,242	5,737	4,913	5,193	4,785	5,076	4,446	3,865	4,532	5,319	5,168	58,900
濃厚流動食	193	334	377	157	215	79	42	22	182	263	147	291	2,302
病後児・託児所	213	221	255	324	226	230	261	283	353	336	335	347	3,384
その他	101	104	92	111	118	100	101	92	99	101	100	95	1,214
合計	15,716	17,051	17,685	16,848	18,122	17,623	17,244	16,181	16,738	17,877	18,393	16,863	206,341

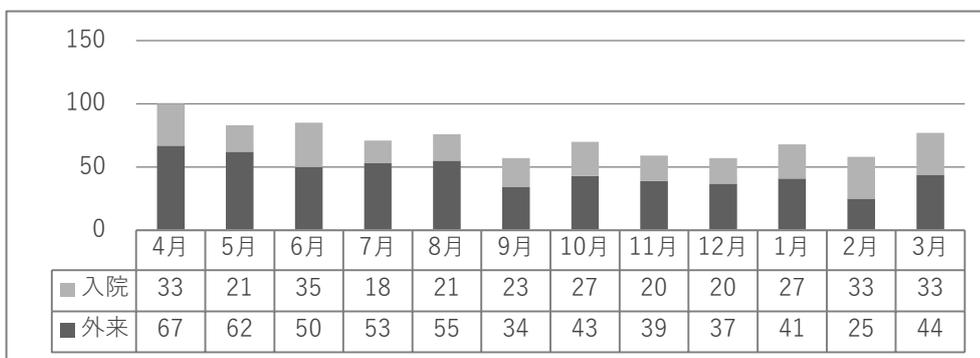


図1 栄養指導件数

表2 指導内容（入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DM・肥満	8	4	5	4	5	6	4	3	1	5	7	5	57
心疾患（減塩含）	8	9	13	4	4	7	8	5	9	10	8	12	97
脂質異常症・痛風	1		1										2
胃切除後	2	1	3		1	1	3	3	2	1	1	5	23
術後（胃切除以外）					1				1				2
潰瘍・低残渣		2		3	1			1			2	1	10
消化器処置（ESD・EMR・ERCP等）	9	4	5	5	3	3	7	5	3	8	10	8	70
腎障害						1	1			1			3
透析			1		1						1		3
膵疾患					1	1	2	2					6
肝疾患	2		1								1		4
摂食障害		1							2		1	1	5
低栄養				1									1
嚥下障害			1		1	1		1	1		1		6
がん	3		3		2	1	2		1	2	1		15
骨粗鬆症													0
その他			2	1	1	2						1	7
合計	33	21	35	18	21	23	27	20	20	27	33	33	311